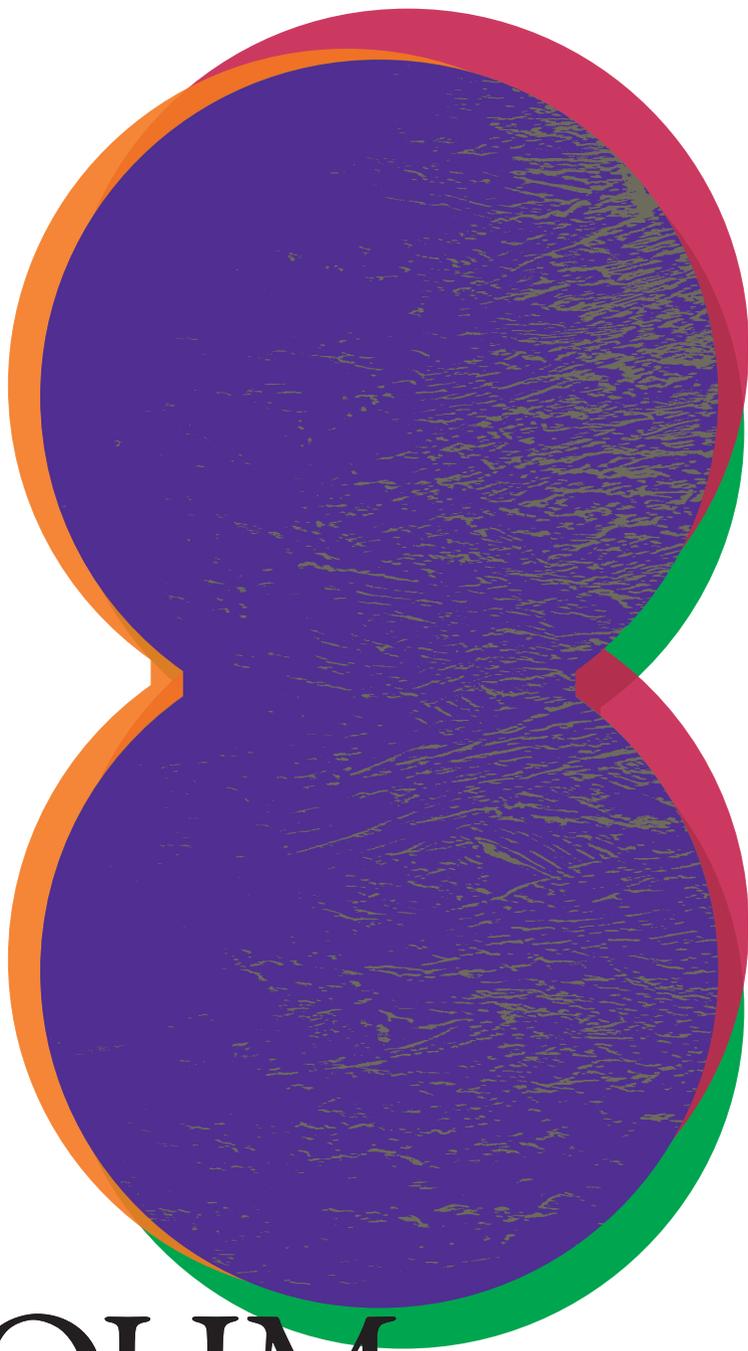


ロームシアター京都



自主事業ラインアップ — 2019.4 — 2020.3

# ROHM Theatre Kyoto

ロームシアター京都  
ROHM Theatre Kyoto

## ロームシアター京都

## 2019年度 (2019年4月-2020年3月) 自主事業ラインアップ

リニューアル・オープンより4年目を迎えるロームシアター京都の2019年度自主事業ラインアップを発表します。

京都に「劇場文化をつくる」ことを目指し、自ら企画に取り組んだ多彩な事業を引き続きお届けします。洋の東西を問わず、世界水準の優れた作品をお届けすることはもちろん、劇場の財産となる作品のプロデュースや、次代を担う芸術家の育成にも一層力を入れて取り組みます。また京都のさまざまな施設や団体と連携し、世代やバックグラウンドの違いを越えた人々が参加できる多彩なプログラムを通じて、劇場をハブに多様な出会いを生み出します。

ロームシアター京都の自主事業には、「創造」「育成」「交流」「生活」という4つの構成要素がありますが、これらは各事業を分類するためのタグではありません。一つの事業の中に複数の要素を盛り込むことによって、異なる事業間に有機的つながりを持たせるためのものです。たとえば、「レポートリーの創造」という事業は、その名の通り「創造」が主な目的ですが、「リサーチプログラム」という若手研究者を「育成」する事業の研究対象にもなりますし、アーティストの滞在制作期間中には、京都のアーティストとの「交流」も図られるはずです。

また2019年度は、奇しくもあるキーワードによっていくつかの公演事業をつなぐことができます。それは“人形”というものです。「レポートリーの創造」で制作するジゼル・ヴィエンヌの作品は、生身のダンサーとそれと見紛う精巧な人形が舞台上に登場し、「舞台芸術としての伝統芸能」シリーズ第3回目では、日本が世界に誇る芸能・人形浄瑠璃文楽に取り組みます。AI(人工知能)がニュースを賑わす現在において、古来より人間の祭礼・芸術などの文化的営為で重要な位置を占めてきた人形を取って今キーワードに据えることで、現代社会を俯瞰して見る視点を得られるかもしれません。もう一つの特徴は、「総合」に分類される事業が増えたことです。ロームシアター京都がご紹介したい作品・プロジェクトは、その質はもちろんのこと、チャレンジ精神も重要な要素です。従来の「演劇」「音楽」「舞踊」などのジャンルでは分類しきれない新しい取り組みは、未分化であったり、複合的であったりするのは自然の成り行きです。未だ見ぬものに分け入る冒険のような鑑賞体験へと、皆さんを誘うことになるでしょう。

あくまでこれらは一例ですが、ロームシアター京都の自主事業は、事業の趣旨やテーマを通じて様々なつながりを持つように構成されています。それはこの劇場が施設としてだけでなく、内容としても開かれた場でありたいと考えるからです。内容として開かれているというのは、様々な興味・関心からアクセス可能だということです。そうすることで、皆さんにとって、そして我々劇場のスタッフにとっても思わぬ出会いのきっかけを用意することができるのです。そんな新たな出会いが、新たな対話を生み出していく…。ロームシアター京都で生まれる営みが蓄積となり、さらに人々が引き寄せられ、日常のかつ継続的にロームシアター京都に足を運び、関心を寄せてもらえるようなサイクルが生み出されることを願っています。

ロームシアター京都

月	日	会場	事業名	ジャンル	
4	13 [土]、14 [日]	サウスホール	栗山民也演出 『母と惑星について、および自転する女たちの記録』	演劇	
5	17 [金]-24 [金]	ノースホール	日本ポーランド国交樹立100周年記念 ヤネック・ツルコフスキ『マルガレーテ』	演劇	
	21 [火]	サウスホール	第345回 市民寄席	演劇	
6	1 [土]、2 [日]	メインホール	能の世界へおこしやすー京都新能鑑賞のための公開講座ー	演劇	
	1 [土]、2 [日]	平安神宮 (雨天時:メインホール)	第70回 京都新能	演劇	
7	5 [金]、6 [土]	サウスホール	ディミトリス・パパイオアヌー『THE GREAT TAMER』	舞踊	
	14 [日]	3階共通ロビー	ホリデー・パフォーマンス Vol.1   アンサンブル九条山	総合	
	23 [火]	サウスホール	第346回 市民寄席	演劇	
8	4 [日]-18 [日]	ロームシアター 京都ほか	プレイ!シアター in Summer	総合	
	29 [木]	サウスホール	能楽チャリティ公演 ~被災地復興、京都からの祈り~	演劇	
	31 [土]	3階共通ロビー	ホリデー・パフォーマンス Vol.2   瓜生山オーバートーン・アンサンブル	総合	
9	8 [日]	サウスホール	第347回 市民寄席	演劇	
	14 [土]-16 [月・祝]	サウスホール	栗山民也演出『人形の家 Part2』	演劇	
10	4 [金]-27 [日] 予定	ロームスクエア	OKAZAKI PARK STARGE	総合	
	5 [土]-27 [日]	ロームシアター 京都ほか	KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2019	総合	
	28 [月]、30 [水]	メインホール	新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室2019『蝶々夫人』	音楽	
11	4 [月・休]	メインホール	全京都洋舞協議会60周年記念公演	舞踊	
	26 [火]	サウスホール	第348回 市民寄席	演劇	
12	2 [月]	ノースホール	Marihiko Hara 《FOR A SILENT SPACE》	音楽	
	11 [水]-13 [金]	ノースホール	U35 創造支援プログラム“KIPPU” 1   お寿司	総合	
	12 [木]	サウスホール	ジョン・ジョナス京都賞受賞記念 パフォーマンス『Reanimation』	総合	
	18 [水]、19 [木]	ノースホール	村田沙耶香×松井周 inseparable 新作公演『変半身』	演劇	
	22 [日]	メインホール	京都市交響楽団×東京バレエ団 クリスマス・スペシャル バレエ『くるみ割り人形』〈全幕〉	音楽	
2020	1	18 [土]	サウスホール	室内オペラ『サイレンス』	音楽
	26 [日]	サウスホール	第349回 市民寄席	演劇	
2	8 [土]、9 [日]	サウスホール	レポートリーの創造 ジゼル・ヴィエンヌ、エティエンヌ・ビドー＝レイ 『ショールームダミーズ #4』	舞踊	
	8 [土]-11 [火・祝]	ノースホール	U35 創造支援プログラム“KIPPU” 2   オル太	総合	
	21 [金]-23 [日] 予定	ノースホール	康本雅子 新作ダンス公演	舞踊	
	29 [土]	サウスホール	シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 vol.3 文楽公演	演劇	
3	20 [金・祝]、22 [日]	メインホール	小澤征爾音楽塾 オペラ・プロジェクトXVIII J.シュトラウスII世   喜歌劇「こうもり」	音楽	
	未定	サウスホール	KYOTO STEAM ー世界文化交流祭ー 2020 ダムタイプ 新作公演	総合	

## 演劇 / THEATER

共催

『母と惑星について、  
および自転する女たちの記録』

**第20回鶴屋南北戯曲賞受賞作品！  
蓬萊竜太の戯曲と栗山民也の演出により  
立ち上がる、女性4人をめぐる  
“命”の物語、待望の再演。**

2009年「まほろば」で岸田國士戯曲賞を受賞した蓬萊竜太と、日本のみならず韓国など国外でも活動の幅を広げている演出家、栗山民也が2016年に立ち上げ、鶴屋南北戯曲賞を受賞した意欲作、待望の再演決定。テーマは、“命”。普遍的で、それでいてさまざまな色や形をもつ「家族」。

蓬萊が女性4人を中心に描く家族の在り方は、特に母と娘という関係にひそんでいる独特の愛憎を浮かび上がらせ、栗山民也の人間への深い洞察力により、悲しくも愛しい「家族」と「女たち」の「生きる」姿と形を描き出します。京都にゆかりのある田畑智子・キムラ緑子、近年益々実力を高める鈴木杏・芳根京子の豪華4名が母娘4人の愛憎による闘いをどのように繰り広げるのか、壮絶な4人のドラマにどうぞご期待ください。

作 | 蓬萊竜太 演出 | 栗山民也 出演 | 芳根京子、鈴木杏、田畑智子・キムラ緑子

あらすじ

突然の母の死からひと月。私たちは何と決別すればいいのか。徹底的に放任され、父親を知らずに育った三姉妹は遺骨を持ったまま長崎からあてのない旅に出る。「私には重石が三つ必要だ」と毎日のように聞かされた母の口癖が頭をめぐる。次第に蘇る三姉妹それぞれの母の記憶。奔放に生き、突然消え去った母。母は、何を欲していたのか。自分はこれからどこに向かえばいいのか…。三姉妹の自問の旅は続く…。

**全席指定** 一般7,800円 [発売中]

企画・製作 | 株式会社パルコ 主催 | 朝日放送テレビ / サンライズプロモーション大阪  
共催 | ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

日時

4月13日 [土]

13:00 / 18:00開演

14日 [日]

13:00開演

会場

サウスホール

1957年にスタートし、京都では恒例の落語会として長く親しまれてきた「市民寄席」。幅広い世代に笑いを届ける上方落語の生の迫力と寄席の雰囲気をご体験ください。



「第339回市民寄席～三番改メ七代目笑福亭松喬襲名披露公演～」  
撮影 | 佐々木卓男

第345回番組 | 「桃太郎」笑福亭縁、「酔いどれ交番所」月亭遊方、  
「宇治の柴舟」桂梅団治、「天神山」桂文也

日時 | 第345回 5月21日 [火] 19:00開演、第346回 7月23日 [火] 19:00開演  
第347回 9月8日 [日] 13:30開演、第348回 11月26日 [火] 19:00開演  
第349回 2020年1月26日 [日] 13:30開演

主催

市民寄席  
第345回 - 349回

会場

サウスホール

**全席指定** 5月、7月、11月回 | 前売1,800円 / 当日2,000円 / ユース(25歳以下)1,500円 (前売・当日とも)  
9月、1月回 | 前売2,300円 / 当日2,500円 / ユース(25歳以下)1,500円 (前売・当日とも)  
[第345回(5月)発売中 / 年間席札8,000円(完売)]

主催 | 京都市、ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

主催

『マルガレーテ』  
ヤネック・ツルコフスキ  
日本ポーランド国交樹立100周年記念

©konfrontacje

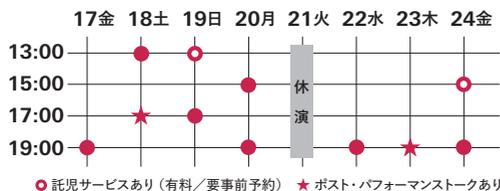
**フィルムに残された映像を手掛かりに、  
人間の記憶や個人のアイデンティティを問う。  
演出家自らによって演じられる、限定25名の特別な空間。**

ポーランドの演出家ヤネック・ツルコフスキの作品を日本初招聘します。ヤネック自身が、単なる好奇心から、東ドイツの国境近くに住む、見ず知らずの人の8mmフィルムを64巻購入したことに端を発する作品。古いフィルムに焼き付けられた撮影者のこだわりのイメージと、共産主義時代のセンチメンタルな風景をみた彼は、いつしかこの映像を使って作品を作ろうと思うようになります。人の記憶がどう生成されるのか、また、個人のアイデンティティはどのように形作られるのか。少人数の観客と対峙して行われる、演出家自身によって演じられる親密なソロ・パフォーマンスです。

コンセプト・出演 | ヤネック・ツルコフスキ

日本語吹替 | 大庭裕介 日本語翻訳 | 伊藤拓

[英語上演 / 日本語吹替]



**全席自由** 2,000円 ※各回限定25席 [発売中]

主催 | ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市  
助成 | アダム・ミツェヴィチ・インスティテュート 協力 | ポーランド広報文化センター

セレブレーション — 日本ポーランド現代美術展 —

日程 | 2019年5月18日 [土] - 6月23日 [日] 会場 | 京都芸術センター、ザ ターミナル キョウト、ロームシアター京都  
お問い合わせ | 京都芸術センター TEL.075-213-1000



ヤネック・ツルコフスキ / Janek Turkowski  
演出家、脚本家。シュチェチン (ポーランド) にある劇場 Kana Theatre Centre の企画にも携わる。シュチェチンで開催される Kontrapunkt Festival の芸術委員を10年間務める。時間とナレーションの概念、さらには、ストーリーテリングの起源に関心を持つ。最近では、作品「it's happening in norwich」「Klosterhof」「Smalfilm」をイウォナ・ワカと共同で制作している。 ©Piotr Nykowski

# 能の世界へおこしやす

— 京都新能鑑賞のための公開講座 —



京都新能を通じて能と狂言の世界をお楽しみいただくために、出演者による公開レクチャーを今年も実施します。能の謡や囃子、狂言の体験を交えた解説の後に、ダイジェスト版の能も鑑賞いただけます。

出演 | 京都新能出演能楽師

**全席自由 無料** 京都新能チケットを持参の場合は申込不要、当該公演のみ参加の場合は要事前申込(4月12日(金)～5月23日(木)まで、京都いつでもコール(661-3755)にて受付)

主催 | 京都市、一般社団法人京都能楽会、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

**共催** 第70回京都新能

日時 | 6月1日[土]・2日[日] 18:00開演[両日] 会場 | 平安神宮(雨天時:メインホール)

6月1日[土] | 観世流能「平安」、観世流能「草子洗小町」、大蔵流狂言「福部の神」、  
金剛流能「石橋 狻猊之式」

2日[日] | 観世流能「絵馬」、金剛流能「羽衣」、大蔵流狂言「仁王」、  
観世流能「石橋 大獅子」

**全席自由** 前売券4,000円 ほか [4月13日(土)一般発売開始]

主催 | 京都市、一般社団法人京都能楽会 共催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

日時  
6月1日[土]  
2日[日]  
14:00開演(両日)  
会場  
メインホール

**共催**

## 被災地復興、京都からの祈り 能楽チャリティ公演



平成27年「高砂」

被災地の復興を支援するため、京都在籍の能楽師有志による能楽チャリティ公演を開催します。

- 第1部 | 半能「高砂」(シテ:河村和晃)、狂言「盆山」(シテ:茂山忠三郎)  
能「殺生石」(シテ:大江信行)  
第2部 | 半能「賀茂」(シテ:深野貴彦)、狂言「呼声」(シテ:茂山千五郎)  
能「善界」(シテ:片山九郎右衛門)

**全席自由** 1,500円 [6月1日(土)一般発売開始]

主催 | 京都在籍能楽師有志  
共催 | 京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、国際交流基金京都支部

日時  
8月29日[木]

第1部 10:30開演  
第2部 18:30開演

会場  
サウスホール

着陸した飛行機の窓から空港の向こうに広がる木立を眺めながら、ああこの風景は知ってる、と思った。初めてのポーランド、初めてのワルシャワなのにそんな気がするの、キシエロフスキの映画のせいだ。ワイダの次の世代として登場し、90年代に急逝してしまった監督。彼がときに緑や黄色のフィルターをかけて撮ったのと同じような風景が、ここにはまだあるのだった。

しかしワルシャワへ来たのは映画ではなく演劇が目的だ。アダム・ミツキェヴィチ・インスティチュート(AMI)の厚意で、2018年4月、ショーケース『Generation After 2』を観に来ることができたのだった。

「以後の世代」というタイトルは、大御所のクリスチャン・ルバ(1943年生まれ)や、その教え子にあたるクシシュトフ・ヴァリコフスキ(同1962年)、グジェゴシュ・ヤジナ(同1968年)らの後という意味だろう。30代を中心に、20代も含む若い演出家の11作品を3日間で集中上演する。主催はワルシャワ市内のノヴィ劇場、他に5館が連携しての開催。2017年につづく企画なので「2」とついている。

最初に観たのが、今年京都にもやって来るヤネック・ツルコフスキの『マルガレーテ』だった。会場はノヴィ劇場の倉庫のようなスペースの奥、小さなスクリーンを囲んで客席は20余。振舞われたお茶を飲みながら待っていると、演出家自らが出てきて、プロジェクトで画面を見せながら話を進める。フリーマーケットで買った古いフィルムに写っていた女性の正体を突き止めていく、その経緯のプレゼンテーションが作品になっている。次第に明かされる事実や歴史的背景も面白いが、演出家の人柄と語り口がよかった。終演後に観客の1人が「途中で写っていた建物は自分の働いている町だ」と情報提供していて面白かった。

TRワルシャワ劇場ではまだ20代のエンジェイ・ピアスコフスキの『ブッペンハウス治療』。戦時中にナチスに協力し罪に問われた実在の女優の物語だというのが、シューゲイザーのような分厚いギターノイズの爆音の上にマイクを通したせりふが乗るといふ、ドラマ演劇の文法とはかけ離れた作品だった。あとで聞いたら演出家は映像の専攻出身だという。

演劇アカデミー学内の劇場ではアンナ・カランスカの『ファンタジア』。素舞台上に普段着の俳優6人が立ち、マイクで聞こえてくる

演出家の指示に回答していく。指示といってもキャプションのようなもので、「誰々(俳優の実名)はいまこう思っている」というような、ウソとも本当ともとれる描写から始めて、言葉の意味に俳優が合わせたり、あえて裏切ったりしながら、だんだんフィクションの次元に入っていく。ちょっと東京デスロックを思わせる作風で、俳優たちの人柄の魅力をものすごくよく浮かび上がらせていた。

翌日はショーケースを離れてルブリンという町にマグダ・シュベフトという若い演出家の『ハムレット』を観に行った。ハムレットの実存的な悩みが、人工知能が人間の振る舞いを習得していくことと結び合わされていて、意表をつく上演だった。上演中、観客が自由に移動できるスタイルもよかった。夜はワルシャワに戻ってショーケースの最後の作品、音楽家ミハウ・リペラの『コスモス・コスモス』。ゴンプロヴィッチの小説『コスモス』(太田吾吾のヤジルシシリーズの元ネタ)をダブ化したような、ヴォーカル(朗読)と打楽器2人の計3人によるパフォーマンス。あとひとつ番外編で印象的だったのは、帰国の日の朝に見た、ロベルト・ヴァルザーをモチーフにした小品。「誰も私にはならないように」と書いたスイスの不遇の作家ヴァルザーの、生前世に出なかった作品を、3人のパフォーマーが空っぽのギャラリーを巡りながら紹介していく。実現しないアイデアや忘却されていく仕事が身に沁みて、我々誰もがヴァルザーになっていくような気がした。

いわゆるポストドラマ演劇が当たり前になった「以後」の状況で、若いアーティストがどんなチャレンジをするか、そしてそのことを劇場がどう支えるか、真剣に模索していることにとっても感銘を受けた。気を引き締めながら、いまフェスティバル/トーキョーでもTRワルシャワとAMIと共同でマグダ・シュベフトの新作を準備している。日本でもフェスティバルや劇場が連携して若手の創作を支える仕組みを、何とかして増やしていきたい。

長島 確 ながしま かく

日本におけるドラマトゥルクの草分けとして、さまざまな演出家や振付家の作品に参加。近年は演劇の発想やノウハウを劇場外に持ち出すことに興味をもち、アートプロジェクトにも積極的に関わる。『新訳ベケット戯曲全集』(監修・共訳)が刊行中。2018年よりフェスティバル/トーキョーのディレクターに就任。

## ポーランド演劇の次世代

長島 確

## 伝統芸能の継承と創造を 目指すシリーズ第三弾は、文楽!

2017年度から始まった伝統芸能の継承と創造を目指すシリーズ「舞台芸術としての伝統芸能」。3年目となる2019年度は“文楽”をテーマに、木ノ下歌舞伎主宰・木ノ下裕一をスーパーバイザーに招き、新たな取り組みを行います。今もっとも華のある人形遣いの一人、三世桐竹勘十郎を筆頭に、日本の伝統芸能の至宝である技芸員たちによる上演が繰り広げられます。上演後には、技芸員と専門家によるディスカッションも実施します。

出演 | 桐竹勘十郎 ほか スーパーバイザー | 木ノ下裕一



桐竹勘十郎

料金未定 [10月発売予定]

主催 | 京都市、ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 企画製作 | ロームシアター京都 制作協力 | 木ノ下歌舞伎/一般社団法人樹来舎 特別協賛 | 公益財団法人稲盛財団

主催

## 文楽公演

シリーズ「舞台芸術としての  
伝統芸能」vol.3

日程  
2020年  
2月29日 [土]

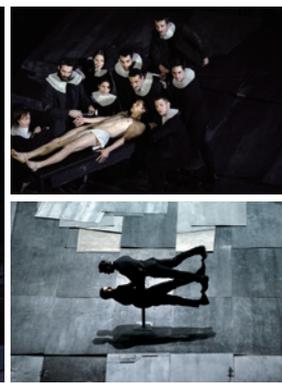
会場  
サウスホール

## 舞踊/DANCE

主催

## 『THE GREAT TAMER』

ディミトリス・パパイオアヌー



photographs by Julian Mommert

ギリシャ発ダンスの現在、肉体が奏でる幻想の旅  
古典絵画から宇宙まで、芸術と科学を横断するイマジネーションが、  
私たちを人類の起源へと誘う。

アテネオリンピック開閉会式の演出を手がけ、近年ではピナ・バウシュ亡き後のヴッパータール舞踊団から初のゲスト振付家に指名されるなど、世界のアートシーンでその存在感を際立たせているディミトリス・パパイオアヌー。ヴィジュアル・アートと身体表現を接続する手法で、唯一無二のスタイリッシュな舞台を生み出しています。『THE GREAT TAMER』(偉大なる調教師)は、2017年アテネでの初演以来、アヴィニョンをはじめロンドン、パリ、ロサンゼルス、ソウル、台北などすでに世界30都市以上で上演され各地で高い評価を受けています。神話に言及しながら、古代ギリシャからルネサンス・バロックへと美術史を辿る彫刻や絵画、映画史に残る名作を彷彿させるシーン、重力を操るサーカスの要素を取り入れるなど、身体表現と空間がパノラミックに展開する本公演は、ダンス、演劇、ヴィジュアル・アート、音楽を愛好する皆様必見の舞台です。

ビジュアル・演出 | ディミトリス・パパイオアヌー 音楽 | ヨハン・シュトラウスII「美しく青きドナウ」

全席指定 一般6,000円/ユース(25歳以下) 4,000円 [発売中]

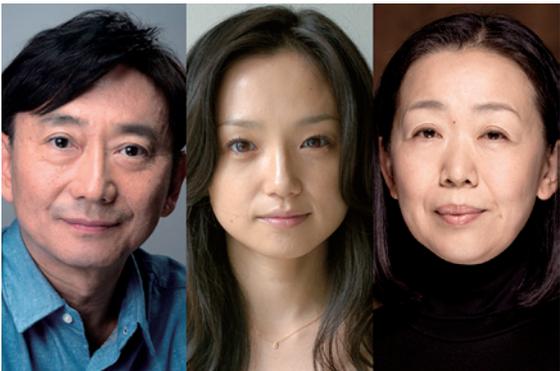
主催 | ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市 共同招聘 | 彩の国さいたま芸術劇場 (公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団)

日程  
7月5日 [金]  
19:00開演  
6日 [土]  
15:00開演

会場  
サウスホール

共催

## 『人形の家 Part2』



あのイブセン作「人形の家」のノラが家を飛び出した15年後を描き、混沌とした現代社会の中での女性の生き方、現代の家族のあり方を鋭くつきつけた、気鋭の劇作家ルーカス・ナスのブロードウェイ・デビュー作が「第26回読売演劇大賞」大賞受賞の栗山民也演出で本邦初演! 2017年に発表されるや、瞬間に評判となり、すぐさまブロードウェイに駆け上がった注目作です。TONY賞(2017)に作品賞他8部門ノミネートされた話題の作品が京都でも上演される貴重な機会です。

作 | ルーカス・ナス 翻訳 | 常田景子 演出 | 栗山民也

出演 | 永作博美、山崎一、那須凜、梅沢昌代

日程  
9月14日 [土]  
-16日 [月・祝]

料金未定 [6月発売予定]

会場  
サウスホール

企画・製作 | 株式会社バルコ 主催 | サンライズプロモーション大阪  
共催 | ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

## 芥川賞作家の村田沙耶香と 岸田戯曲賞作家の松井周が 運命の共作

村田沙耶香の代表作『コンビニ人間』は92万部を突破、現在20か国語で翻訳が決定しています。マイノリティーの居心地の悪さと、まもなく訪れそうな未来をユーモアたっぷりに描く村田と、社会的価値観の崩壊をニヒリズムたっぷりに描き、人工知能や先端医療を題材にした演劇や小説を発表してきた松井周が、世界設定とコンセプトを一緒に考え、それぞれの作品を作り上げていきます。

原案 | 村田沙耶香、松井周 脚本・演出 | 松井周 出演 | 未定



画 | 渡邊鮎彦 (カブカ)

## 『変半身』

村田沙耶香 × 松井周  
inseparable 新作公演

日時  
12月18日 [水]  
14:00/19:00開演  
19日 [木]  
18:00開演

会場  
ノースホール

村田沙耶香 / Sayaka Murata

1979年千葉県生まれ。玉川大学文学部芸術文化学科卒。2003(平成15)年『授乳』で群像新人文賞(小説部門・優秀作)受賞。2009年『ギンイロノウタ』で野間文芸新人賞、2013年『しろいろの街の、その骨の体温の』で三島賞、2016年『コンビニ人間』で芥川賞受賞。



© Sayo Nagase

松井周 / Shu Matsui

1972年東京都生まれ。1996年劇団「青年団」に俳優として入団後、作家・演出家としても活動を開始する。2007年『カロリーの消費』より劇団「サンプル」を旗揚げ、青年団から独立。2011年『自慢の息子』で第55回岸田戯曲賞を受賞。



© 平岩 享

全席自由 一般3,500円/ユース(25歳以下) 2,000円/18歳以下1,000円 [9月21日(土)一般発売開始]

主催 | ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市 企画製作 | 有限会社quinada 共同製作 | 三重県文化会館 (公益財団法人三重県文化振興事業団)、ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、神戸文化ホール (公益財団法人神戸市民文化振興財団)

主催

# レパトリーの創造 ジゼル・ヴィエンヌ、エティエンヌ・ビドー＝レイ 『ショールームダミーズ』



Show | Showroomdummies (creation 2001) Design | ©Etienne Bideau-Rey & ©DACM / Gisele Vienne  
Artist | Anne Mousselet Photograph | ©Alain Monot

## 世界中の観客を魅了する俊才、 ジゼル・ヴィエンヌと創造する、次代へ繋ぐレパトリー。

時代を超えて末永く上演される劇場のレパトリー演目を製作することを念頭に、2017年から継続して取り組むプロジェクト。今年度からは、世界中の観客を魅了し続けるフランスの俊才、ジゼル・ヴィエンヌを迎え、レパトリー作品を2年間にわたって製作します。初年度は、マゾッホの『毛皮を着たヴィーナス』をモチーフに、2001年の初演から現在に至るまで、再演を繰り返しながら変化を続けるジゼル・ヴィエンヌの出世作『ショールームダミーズ』を上演します。本作でヴィエンヌは、エティエンヌ・ビドー＝レイと共に演出・振付・舞台美術を担当。オーディションで選出されるダンサーたちによる、あらたな舞台が立ち現れます。

演出・振付・舞台美術 | ジゼル・ヴィエンヌ、エティエンヌ・ビドー＝レイ  
出演 | 公募によるオーディションによって決定  
音楽 | ピーター・レーバーク 照明 | パトリック・リウー

### レパトリーの創造について

ロームシアター京都が、2017年度から取り組んでいるプログラムで、公立劇場が主体的に作品製作に取り組み、劇場のレパトリー演目として時代を超えて末永く上演されることを念頭にプロデュースします。また、作品創造のプロセスを通じて、俳優、ドラマトルク、制作者等の専門人材の育成や観客育成のための関連プログラムを企画し、レパトリーの創造から各地域における劇場文化をつくることを目指します。

### ジゼル・ヴィエンヌ / Gisèle Vienne

1976年生まれ。哲学を学んだ後、フランス国立高等人形劇芸術学校に在学。振付家、演出家、パフォーマー、美術家として活躍。小説家のデニス・クーパーとのコラボレーションのほか、写真やインスタレーション作品も積極的に発表している。2018年には、KYOTO EXPERIMENTで鮮烈な印象を与えた『CROWD』で、フランスの批評家協会賞の最優秀賞を受賞。



Photograph  
©Patrick Chiha

### エティエンヌ・ビドー＝レイ / Etienne Bideau-Rey

1975年生まれ。ベルギーのサン＝リュック美術学院、リエージュ王立美術アカデミー、フランスの国立高等人形劇芸術学院で学ぶ。振付家・演出家の活動の他に、ドローイングや彫刻も制作。2000年にマルセル・ブルースティン・ブランシェ職業財団賞を受賞。最初の舞台作品をジゼル・ヴィエンヌと共に手掛ける。



料金未定 [9月発売予定]

企画製作 | ロームシアター京都 主催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

インタビュー・テキスト | 岡見さえ(舞踊評論家)

インタビュー

# ディミトリス・パパイオアヌー

2017年の初演以来、世界中で上演を続ける『THE GREAT TAMER』。初来日に向けて、コンセプト・ビジュアル・演出を手掛けるディミトリス・パパイオアヌー氏に自身のルーツや作品の演出意図について訊ねた。

——アテネの出身で、最初は美術学校で画家になる勉強をしていたと伺いました。

はい。小さな頃から絵が得意で、16歳で画家になると決心してギリシャで非常に重要な画家、ヤニス・ツァロウチス(1910-89)に教を請いました。その後、アテネの美術学校に入り、学生時代にダンスに出会ったのです。

——どんなきっかけですか？

ギリシャで実験的なダンスカンパニーを主宰していた女性に出会い、彼女のクラスに誘われたのです。彼女はパフォーマンスだけでなく、舞台美術や衣装、メイク、照明を担当する機会も与えてくれました。そして22歳で、絵画と複合したパフォーマンスを自分で作り始めました。

——『THE GREAT TAMER』もハイブリッドな舞台作品です。この作品であなたは「振付家」を名乗っていませんが、自作をどう位置づけていますか？

この作品では、「コンセプト、ヴィジュアル構成、演出」担当です。私にとって、作品の演出は振付に相当するのです。私の作品はコンテンポラリーダンスの中心ではなく、エッジに位置していると思います。でもカテゴリー分けは重要ではなく、作品が観客の感情と知性に働きかけるかが私にとって問題です。

——『THE GREAT TAMER』を見て、時間の概念が非常に独特で美しく感じました。限定された舞台空間に、個人の時間と数千年にわたる歴史が同時性をもって存在し、重なり合います。

嬉しいです。私は自分の作品を、時間の彫刻にしたいと考えています。時間を彫刻したい。美しいイメージを作ることは容易ですが、時間が経過しても他と影響し合いつつ、それ自体が美しいイメージを放つ存在を作ることには、容易ではありません。私はダンス、身体、観念を時間の中に置き、時の経過の試練を与えるのです。

——時間の彫刻を創るとは、付け加えるよりむしろ削ぎ落とす仕事ですか？

研ぎ澄ませ、さらに滑らかにしていきます。宗教彫刻のように滑らかに、可能な限りクリアなフォルムを作る。そして性的に、政治的に、知的に、哲学的に、感情的に、少しでも危険になるように。礼儀正しく穏やかでも、安全ではいたくないのです。

——挑発でしょうか？

挑発とは違います。瞳の中の炎、その煌めきが欲しいのです。——この作品では、西欧芸術の名作の身体イメージの使用も特徴的です。

ルネッサンス、表現主義、シュルレアリスムも使っています。元は画家なので、私の頭の中には百科事典的に芸

術における人間の身体の歴史が入っている。だから生きている身体を扱うと、イメージが湧いてきます。もし何かマンテーニャのキリストに似ていたら、私は否定せずに肯定する。視覚的な連想で遊びたいのです。私が受け継いだ遺産、西欧文化の歴史に関する、一種のコミュニケーションの遊びですね。ギリシャ人である私は、西欧文化の中心にいますから。

——先端的な芸術はしばしば過去を否定しますが、あなたは逆ですね。

私は、古典芸術を否定しない現代アーティストであろうとしています。現代に生きているので同時代の作品を作っていますが、古典を心から愛しているのです。分断ではなく、古典芸術を再発見したい。でもノスタルジーに浸るのではなく、記憶の中の断片から、新たな意味と調和の感覚をつかみ取りたいのです。

——過去の芸術の身体イメージが現代のダンサーと重なるとき、身体性の違いあるいは相似を感じますか？

同じことです。そこに私は、いつも同じ、奇妙で美しい動物を見出すのです。

——10人の出演ダンサーのプロフィールを教えてください。全員がギリシャ人です。俳優が4人、ダンサーが5人、ストリートダンスのダンサーが1人。4人は前の作品でも一緒に仕事をしました。長身で細身の男性がヒップホップ出身で、舞台作品に初めて出演します。

——音楽は『美しき青きDNA』を使っていますが、この選択の理由は？

世界一ありふれた楽曲だから…。一種の皮肉です。曲を減速し、時間が引き伸ばされますが、その続きはみんな知っている。このテンションを面白く感じました。死に対する省察であるこの作品に、この音楽は微かなユーモアも付け加えてくれます。

——ついにあなたの作品を日本で見られるのが楽しみです。来日は初めてですか？

プライベートも含め、日本は初めてです。尊敬するアーティストも多く、20代の頃にNYで田中泯さんのワークショップを通して舞踊にも関心を持ちました。実際に日本に行くのを、心から楽しみにしています。

2019年3月5日 フランス・リヨンにて

### ディミトリス・パパイオアヌー(演出／振付家)



photographs by  
Julian Mommert

1964年アテネ生まれ。美術家として活動を始めたのち、NYでダンスを学び、86年に自身のカンパニーを設立し独自の舞台創作を展開。2004年アテネオリンピック開閉会式を演出し、世界的に注目を集める。2018年5月ヴッパター舞踊団の委嘱により同カンパニーに『Since She』を振付・演出。ピナ・バウシュ亡き後、初めて新作を発表した振付家として大きな話題を呼んだ。



2017年公演より 撮影 | 寺司正彦

「高校生のためのオペラ鑑賞教室」は高校生を対象に開催しています。2019年の公演では、2017年にも上演し、好評を博した、プッチーニ作曲のオペラ『蝶々夫人』を、城谷正博指揮、日本を代表する一流の歌手陣、京都市交響楽団の演奏でお贈りします。栗山民也の演出は、死をもって愛を買った蝶々さんの世界をシンプルながらスケールの大きな舞台で描いています。人物の内面を鮮やかに描写する演出が、高校生の想像力を刺激し、オペラへの興味を喚起します。

演目 | G. プッチーニ 歌劇「蝶々夫人」全2幕（イタリア語上演/日本語字幕付）  
指揮 | 城谷正博 演出 | 栗山民也  
合唱 | 新国立劇場合唱団 管弦楽 | 京都市交響楽団

蝶々夫人：小林厚子 ピンカートン：小原啓楼 シャープレス：青山貴  
スズキ：山下牧子 ゴロー：内山信吾 ボンゾ：島村武男  
ヤマドリ：吉川健一 ほか

**全席指定** 高校生のみ 2,000円  
当日料金 | 2,000円（高校生以下）/4,000円（一般）  
※高校生対象の公演のため、残席がある場合のみ、一般に当日券を販売します

主催 | 京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、新国立劇場  
助成 | 公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション 協賛 | ローム株式会社

## Marihiko Hara 《FOR A SILENT SPACE》

共催



Photo: Kiyotaka Hatanaka

現代アートや舞台芸術、映像のための音楽など幅広い分野で活躍し、2019年も様々なプロジェクト/作品への参加、楽曲提供等が予定されている京都の音楽家 原 摩利彦。これまで不定期に開催してきた室内楽コンサートシリーズ《FOR A SILENT SPACE》初となる劇場での公演です。ピアノを中心とした楽曲、フィールドレコーディングや電子音響を用いた即興演奏など、音楽家 原の世界を存分に堪能できる時間となります。

出演 | 原 摩利彦(ピアノ) ほか

**全席自由** 4,000円 [9月発売予定]

主催 | night cruising 共催 | ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

日時  
12月2日[月]  
19:00開演

会場  
ノースホール

主催

## 『蝶々夫人』 新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室2019



「カルミナ・ブラーナ」は日本屈指の振付家である故石井潤氏の代表作の1つで、運命の力に翻弄されながらも生を謳歌する人々の姿が豊かに描き出され、力強く壮大な群舞が見どころです。可愛さ、美しさ、民族色溢れるレオ・ドリーブの音楽による「コッペリア」は小さなバレリーナからプリマバレリーナまで、魅力がいっぱいに詰まった舞台となり、「精霊たちの森」はシェイクスピア原作の「真夏の夜の夢」をベースにしたダンスシーン満載の新作。まさに子供から大人まで楽しめる大きな舞踊公演です。

上演作品 | 『精霊たちの森』 演出・振付：石原完二  
『コッペリア』第3幕 振付：有馬えり子・井上佳子・末松大輔・原美香  
『カルミナ・ブラーナ』振付：石井潤 振付指導：寺田みさこ・石井千春  
実行委員 | 有馬えり子・石原完二・井上佳子・神谷道子・末松大輔・  
世古口嬉喜・原美香・福本浩美

**全席指定** 1～3階席 3,000円/4階席 2,000円 [6月発売予定]

主催 | 全京都洋舞協議会 共催 | 公益財団法人 京都市芸術文化協会、  
ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

共催

## 全京都洋舞協議会 60周年記念公演

日程

11月4日[月・休]

会場

メインホール

共催

## 康本雅子 新作ダンス公演 《タイトル未定》



「子ら子ら」©松本成弘

ダンサー・振付家の康本雅子はこれまでダンス界のみならず、演劇、音楽、映像など多岐に渡るジャンルにおいて活動をしてきました。2012年以降、移住や育児のため一旦活動休止した後、2017年から本格的に活動を再開し、同年には「母と子」を題材に自身の生活や苦悩を赤裸々に綴った作品『子ら子ら』を発表。それを経て次なる新作ではダンスの原点に立ち返り、意味や記号から解放された身体に焦点を当てます。「意味から自由になった時に初めて生まれる関係性というのがもしもあるのなら、そこではキスはキスじゃなくなるのかもしれない、という希望を込めて」。

振付・演出・出演 | 康本雅子 出演 | 小倉笑 ほか男女数名

**全席自由** 3,500円 [12月発売予定]

企画・制作 | 奥野将徳 主催 | ペーハー、康本雅子  
共催 | ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

日程  
2020年  
2月21日[金]  
-23日[日]  
予定  
会場  
ノースホール

## 音楽を観る、バレエを聴く「くるみ割り人形」

榊原律子

た箇所でもある。雪が降りしきるなか雪の精たちが踊る美しいワルツに、天使の声を思わせる合唱が入るこの場面は「くるみ割り人形」の中で最も美しいシーンだろう。組曲版では演奏されないこの曲を聴けるのは、バレエ公演ならではの楽しみだ。

バレエ音楽という踊りの音楽に目が向きがちだが、バレエを見ながら音楽を聴いたときに思わず唸らされるのがマイム、つまり演技の場面だ。「眠れる森の美女」やストラヴィンスキー「火の鳥」などでもそうだが、音楽が登場人物の台詞や動きを見事に表現していて、目からウロコが落ちる思いがするはずだ。第1幕、くるみ割り人形とねずみの王様との戦いの終盤、音が語ることをバレエを見ながら感じてほしい。

そこから続く、くるみ割り人形が王子になるドラマティックな場面は、ハ長調の下行の音階で表現される。音階を下るだけという単純なモチーフが実は「くるみ割り人形」の音楽の肝となっていて、バレエの最大の見どころ、金平糖の精と王子のグラン・パド・ドゥの音楽もそう。音階によってもたらされる崇高なクライマックス感、優雅に動くメロディをしのぐとでも言うように、チャイコフスキーは「くるみ割り人形」の翌年、交響曲第6番「悲愴」(1893年)でも音階を使って劇的な音楽を描くのである。

チャイコフスキーの円熟の筆が冴える「くるみ割り人形」、その音楽のユニークさのごく一部をご紹介した。バレエを見れば、転調の色彩やモチーフの繰り返し、そして休符もこれまでと違って「見える」はず。京都市交響楽団と東京バレエ団という日本屈指の団体のコラボレーションとなる12月の「くるみ割り人形」で、極上の音楽×バレエを味わってほしい。

榊原律子 さかきばら りつこ

音楽ライター・編集者。慶應義塾大学大学院修士課程修了(音楽学)。ロームシアター京都プロデュース・オペラ「フィデリオ」をはじめ各地の公演の曲目解説執筆、新国立劇場ほか首都圏の劇場・ホールでの会報誌の編集・執筆、レクチャー講師などを行う。共著書に『新国立劇場バレエ団オフィシャルDVD BOOKSくるみ割り人形』(世界文化社)など。

チャイコフスキーのバレエ音楽「くるみ割り人形」は名曲だ。それゆえ演奏会で聴いただけで満足してしまう。しかし、音楽ファンならば、バレエを見ながら音楽を聴いてほしい。そうすれば音楽の“本当の姿”が見えるからだ。

バレエは、振付、音楽、美術、照明、そしてダンサー、など大勢の人の力が結集してできあがる総合芸術である。その中で、作品の創作において絶対的な力を持っているのが振付家だ。チャイコフスキーの時代、各場面に必要な音楽の表情・拍子・小節数を指示するのは振付家、作曲家はそれに従って音楽を作曲した。このように、バレエ音楽は、まさに踊りのために作曲された音楽なので、音楽だけ聴いていたのでは作品の半分しか楽しんでいないことになる。それはもったいない。

チャイコフスキーにとって3作目かつ最後のバレエ音楽「くるみ割り人形」(1892年12月初演)は、マリンスキー劇場のバレエ・マスター、マリウス・プティパによる“作品設計図”のもと音楽が作曲された。そう聞くとバレエ音楽に作曲の自由はないように思われるかもしれないが、交響曲にも従うべき形式があるし、オペラも歌詞への配慮が必要だ。バレエ音楽はこれらのある種の堅苦しさからは自由で、さらに、幻想的な物語が題材なので斬新な響きを取り入れることができる。それがチャイコフスキーの感性にぴったりと合ったのだろう。「くるみ割り人形」では工夫を凝らした書法と新しい響きで、おとぎの国を見事に描き出した。

その一例が「金平糖の精の踊り」。プティパはこの登場人物に「噴水から零れ落ちる水滴のような」音楽を求めたが、そこでチャイコフスキーが選んだ楽器がチェレスタだ。1886年にパリで開発されたばかりの楽器で、1891年にチャイコフスキーはパリで出会い、購入。他の作曲家たちに隠し通して迎えた初演で鳴り響いたとき、どれだけ衝撃的であっただろう。キラキラしたチェレスタの音色で奏でられる神秘的な音楽は、金平糖の精の静かで繊細なステップと共にあってこそ輝きを増す。両者の絶妙なハーモニーをバレエでぜひ感じてほしい。

また、第1幕「雪片のワルツ」では、オーケストラと共に、なんと合唱を登場させた。現在は児童合唱で歌われることが多いが、チャイコフスキーは「できれば少年聖歌隊で」と楽譜に記入するほど響きにこだわっ



©Kiyonori Hasegawa

### 日本を代表するバレエ団・東京バレエ団と京響の夢のコラボレーションが実現!

チャイコフスキー作曲のバレエ「くるみ割り人形」は、世界中で幅広い世代に愛され、クリスマスの夜を舞台に、夢の世界を描いたファンタジー・ストーリーとして、非常に人気の高い名作です。今回は、京都市交響楽団の生演奏とともに、世界的にそのパフォーマンスレベルを評される東京バレエ団(正式名称:チャイコフスキー記念東京バレエ団)のバレエの美しさとおわせて、華やかで楽しい舞台の魅力をお届けします。

指揮 | 井田勝大

管弦楽 | 京都市交響楽団

出演 | 東京バレエ団

振付 | マリウス・プティパに基づく

音楽 | ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー

#### 京都市交響楽団 / Kyoto Symphony Orchestra

日本唯一の自治体直営オーケストラとして1956年創立。2008年4月第12代常任指揮者に広上淳一が就任。2014年4月から常任指揮者兼ミュージック・アドバイザーに広上淳一、常任首席客演指揮者に高関健、常任客演指揮者に下野竜也が就任。2015年広上淳一とともに「第46回サントリー音楽賞」受賞。2017年「第37回音楽クリティック・クラブ賞」本賞、「第29回ミュージック・ペンクラブ音楽賞」クラシック部門「現代音楽部門賞」受賞。2017年4月からは下野竜也を常任首席客演指揮者に据えて広上・高関・下野による3人指揮者体制を確立し、文化芸術都市・京都にふさわしい「世界に誇れるオーケストラ」として更なる前進を図っている。



©井上写真事務所 井上嘉和

#### 東京バレエ団 / The Tokyo Ballet

1964年に創設。創立以来一貫して、古典全幕作品から現代振付家の名作まで幅広いレパートリーを誇っており、なかでも現代バレエ界を代表する三大振付家——ベジャール、キリアン、ノイマイヤーがバレエ団のために振付けた作品は大きな成功を収めている。これまでに、33次764回の海外公演を行っており、パリ・オペラ座、ミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場などヨーロッパの名だたる歌劇場に数多く出演し「日本の生んだ世界のバレエ団」として国内外で高く評価されている。

料金未定 [8月発売予定]

主催 | 京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

## 京都市交響楽団×東京バレエ団クリスマス・スペシャル バレエ『くるみ割り人形』〈全幕〉

京都市交響楽団×東京バレエ団クリスマス・スペシャル

日時

12月22日[日]  
14:00開演

会場

メインホール



## KYOTO EXPERIMENT 2019

京都国際舞台芸術祭  
Kyoto International Performing Arts Festival

2010年より、毎年秋に京都市内の劇場を中心に、世界各地の先鋭的な舞台芸術を紹介してきた京都発の国際舞台芸術祭の第10回目。国内外からアーティストを迎え、演劇やダンスだけでなく、美術や音楽など従来のジャンルを越境し、いま注目すべき多様な表現が京都に集います。「創造するフェスティバル」として、アーティストと共に作品を製作し、世界初演を含む作品を積極的に紹介。「創造」と「交流」の実験の場として、国際的な舞台芸術のプラットフォームとなることを目指します。

※アーティスト第一弾発表は2019年4月予定! <https://kyoto-ex.jp>

主催 | 京都国際舞台芸術祭実行委員会 [京都市、ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都芸術センター (公益財団法人京都市芸術文化協会)、京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター]

主催

## 京都国際舞台芸術祭2019

KYOTO EXPERIMENT

日程

10月5日[土]-27日[日] [23日間]

会場

サウスホール/ノースホール/パークプラザ  
京都芸術センター/京都芸術劇場 春秋座/Theatre E9 Kyoto ほか

共催



Joan Jonas, Reanimation, 2012, performance at Hangar Bicocca, Milan, Italy, Light Time Tales, 2014. Photo by Moira Ricci

### 現代美術の最先端を走り続けるジョーン・ジョナス、近年の代表的パフォーマンス。

パフォーマンスとニューメディアを融合させた新しい芸術表現の先駆者であり、50年にわたり現代美術の最先端を走り続ける美術家、ジョーン・ジョナス。2018年に第34回京都賞思想・芸術部門を受賞した記念公演であり、国内最大規模のパフォーマンス公演です。今作は、ピアニストのジェイソン・モランと2012年に初演したコラボレーション作品となります。

ジョーン・ジョナス / Joan Jonas

1936年ニューヨーク生まれ、同市在住。1970年代初頭にパフォーマンスとビデオを融合させた新しい表現形式を創始。この領域における先駆者の一人であり、現在もパフォーマンスと新しいデジタルメディアとの関係を探求し続けるアクティブな芸術家として、高い評価と尊敬を集めている。世界各地の美術館での個展・パフォーマンスのほか、ドクメンタなどの国際展、企画展に多数出品している。第56回ヴェネツィア・ビエンナーレ(2015)にアメリカ館代表として参加。2018年3月から8月にかけて、ロンドンのテート・モダンで大規模な回顧展が開催された。

主催 | 公益財団法人稲盛財団 共催 | ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)  
企画・制作 | ロームシアター京都 企画協力 | 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

日時

12月12日[木]  
19:00開演

会場

サウスホール

ジョーン・ジョナス京都賞受賞記念 展覧会

日程 | 2019年12月14日[土]-2020年2月2日[日] 会場 | 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA お問合せ | 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA TEL.075-253-1509

主催

## 『サイレンス』

室内オペラ  
〈日本初演〉



### “ノーベル賞受賞・生誕120周年”川端康成 × “ゴールドングローブ賞・アカデミー賞受賞”アレクサンドル・デスプラ ジャンルレスでボーダレスな新作オペラ!

2019年に生誕120年を迎える小説家・川端康成の短編小説『無言(サイレンス)』にインスピレーションを受け、グラミー賞やゴールドングローブ賞で作曲賞を多数受賞している注目の映画音楽作曲家・アレクサンドル・デスプラが新たに発表する室内オペラ。2019年2月にルクセンブルクで世界初演、パリ(フランス)での初演などを経て、2020年1月に日本初演を迎えます。ルクセンブルクを拠点に活躍する現代音楽アンサンブル「アンサンブル・ルシリン」の演奏に加え、VALENTINO(ヴァレンティノ)のクリエイティブディレクターが衣装を手がけるなど、これまでにないスペシャルなコラボレーションが実現。枠にとらわれない新しいオペラを体験してください。

原作 | 川端康成「無言」 音楽 | アレクサンドル・デスプラ  
台本 | アレクサンドル・デスプラ/ソルレイ 演出 | ソルレイ/シャルル・シュマン  
衣装 | ピエールパオロ・ピッチョーリ (VALENTINO)  
演奏 | アンサンブル・ルシリン 指揮 | エマニュエル・オリヴィエ  
ソプラノ | カミーユ・プル バリトン | ミハイル・ティモシエンコ 語り | サヴァ・ロロフ

[フランス語上演/日本語字幕]

料金未定 [9月発売予定]

日時

2020年  
1月18日[土]  
18:00開演

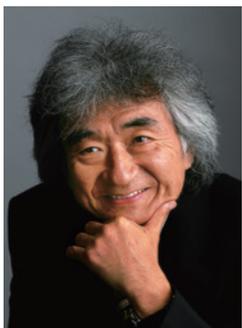
会場

サウスホール

主催 | ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

主催

## XVIII 小澤征爾音楽塾 オペラプロジェクト



©Shintaro Shiratori

世界的な指揮者である小澤征爾が、自らの音楽経験を後進の若手音楽家に伝えることを目的に、2000年に立ち上げた教育プロジェクトによるオペラ公演です。日本、中国、台湾、韓国でのオーディションで選ばれる若手音楽家たちで結成するオーケストラと、一流の出演者・制作陣によって、高水準のオペラを制作します。また、一般向けの公演だけでなく、京都市内の小学生を対象にした、「子どものためのオペラ」公演も開催します。

演目 | J.シュトラウスII世: 喜歌劇「こうもり」  
音楽監督 | 小澤征爾 管弦楽 | 小澤征爾音楽塾オーケストラ

日程

2020年3月20日[金・祝]  
22日[日]

会場

メインホール

主催 | 小澤征爾音楽塾/ヴェローザ・ジャパン、京都市、  
ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 企画・制作 | ヴェローザ・ジャパン  
共催 | 公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション 協賛 | ローム株式会社

# ホリデー・ パフォーマンス

日程

通年[全4回]

会場

3階共通ロビー

主催

音楽を中心としたパフォーマンスを無料でお楽しみいただける、  
新たなシリーズがスタートします。  
ジャンルにとらわれない多彩な音楽を紹介します。

Vol.1 | 7月14日[日] 出演：アンサンブル九条山

Vol.2 | 8月31日[土] 出演：瓜生山オーバートーン・アンサンブル

各回14:00開演 [45分間(予定)]

無料 予約不要

主催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

主催

## OKAZAKI PARK STAGE

アーティストとともに作りあげ  
る“特設ステージ”を、ローム・  
スクエアに設置。期間中、特設  
ステージでのライブパフォーマ  
ンスなどを予定しています。



日程

10月4日[金]  
-27日[日] 予定

会場

ローム・スクエア

無料 予約不要

主催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

主催

# プレイヤー！シアター in Summer オープンデー

日時

8月17日[土]  
18日[日]

会場

ロームシアター京都  
全館

今年も開催!家族や友達と楽しめる、  
ロームシアター京都の恒例夏休み特別企画

劇場で体験する上演形式のインスタレーション、オーケストラのコンサート、こども向けワークショップ、こどもディスコ、劇場ツアーなど、“気軽に遊べる劇場”として、こどもから大人まで満喫できるもりだくさんの2日間。ご家族、お友達を誘ってロームシアター京都におこしください!

視聴覚メディアによる上演型インスタレーション(新作) / 山城大督  
京都市交響楽団 0歳からの夏休みコンサート

COOL! こどもディスコ / 康本雅子 ほか

お絵かき / トナカイサインズ ほか

無料 予約不要 (一部有料あり)

主催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

主催

# U35創造支援プログラム“KIPPU”

ロームシアター京都×京都芸術センター



お寿司『病氣』(2016年) ©松本成弘

オル太『スタンドプレーvol.1』(2018年) ©井上佐由紀

次代を担う若手アーティストが京都から羽ばたく!  
新たな創造支援プログラムの2年目。

若手アーティストの発掘と育成を目的に、ロームシアター京都と京都芸術センターが協働して行う創造支援プログラム“KIPPU”。2年目となる今回、2019年度の参加団体募集を行い、選考を実施。衣装作家が立ち上げた舞台芸術団体「お寿司」(京都)と、巨大な彫刻やインスタレーション、集団による身体表現などを展開するアーティスト・コレクティブ「オル太」(東京)の2組に決定いたしました。各団体のフレッシュな感覚によって、ノースホールにどのような空間が立ち上がるのか、ご期待ください。

参加団体 | ①お寿司 ②オル太

主催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、  
京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会)、京都市※上記は企画の主催クレジットとなります。各公演は、主催 | 参加団体、  
共催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京  
都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会)、京都市で開催します。

日程

①12月11日[水]-13日[金]

②2020年2月8日[土]-11日[火・祝]

会場

ノースホール

主催

## KYOTO STEAM 世界文化交流祭 2020 ダムタイプ 新作公演



『Voyage』(2002年) Photo:Kazuo Fukunaga

世界がその動向を注目し続ける伝説のマルチメディア・パフォーマンス・グループ **ダムタイプ**、2002年以來18年ぶりの待望の新作発表!

ダムタイプは、映像、絵画、建築、デザイン、コンピューター・プログラムなど異なる背景をもつメンバーによるアーティスト集団です。1984年の結成以來、プロジェクトごとにリーダー的な人物、表現方法を変化させながらマルチメディアを使ったパフォーマンスやインスタレーションを中心に発表し、国内外で活動しています。今回は、2002年発表『Voyage』以來となる新作を上演します。

制作 | ダムタイプ、ロームシアター京都 企画製作 | ロームシアター京都 主催 | KYOTO STEAM -世界文化交流祭- 実行委員会 参画団体 | 京都市、京都市立芸術大学、京都市美術館、京都市動物園、(公財)京都市芸術文化協会、(公財)京都市音楽芸術文化振興財団、(公財)京都高度技術研究所、京都商工会議所、京都経済同友会、日本放送協会京都放送局、京都新聞社、京都岡崎 蔦屋書店

日程

2020年  
3月 予定

会場

サウスホール

学び／参加

主催

# 劇場の学校 プロジェクト

日程

6月-12月  
[予定]

将来、日本の舞台芸術界を担う専門的な人材育成事業を開始します。2019年度は、プレ事業として、演劇、舞踊、メディア・パフォーマンスの3種類のコースを設け、国内外の第一線で活躍しているアーティストを講師として招聘するほか、次年度以降の本格実施に向け、芸術教育の現状と未来を考察する研究会を開催。対象は13歳～18歳とし、各コース20名程度を募集します。

講師 | [演劇コース] 岡田利規 (演劇作家／小説家／チェルフィッチュ主宰)、  
松田正隆 (劇作家・演出家／マレピトの会代表)  
[舞踊コース] 木田真理子 (ダンサー)、南村千里 (振付家・ダンサー)  
[メディア・パフォーマンスコース] 高谷史郎 (ダムタイプ)、  
伊藤隆之 (山口情報芸術センター)

企画製作 | ロームシアター京都 主催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

主催

## 未来のわたし ——劇場の仕事

日程  
7月-8月



劇場の現場に興味のある若者を対象に、劇場の仕事を紹介し、体験してもらおうプログラムです。今回は、0～3歳の子どもとその保護者を対象にしたパフォーマンス公演と、ロームシアター京都 全館を利用して行う「プレイ!シアターin Summer」の現場を実践の場として選びました。参加者の関心が深まり、将来像がより具体的になることを目指します。

主催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、  
公益財団法人京都市ユースサービス協会、京都市

主催

## ロームシアター京都 リサーチプログラム

日程

6月[予定]  
-2020年3月

プログラム策定のためのリサーチ、舞台芸術に関わる研究・批評分野と実践の場をつなげる若手人材の育成を目的に、2017年度よりリサーチプログラムを実施しています。リサーチテーマは、「子どもと舞台芸術」「現代における伝統芸能」のほか、今年度からあらたに「舞台芸術のアーカイブ」を予定しています。

リサーチ募集期間(予定) | 2019年4月～5月30日

メンター | 吉岡洋 (京都大学こころの未来研究センター特定教授)

若林朋子 (立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科特任准教授、  
プロジェクト・コーディネーター)

主催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

主催

ロームシアター京都×京都市文化会館5館連携事業

『カラフルパズル』ダンセマ・ダンス・シアター from リアニア



©D.Matvejevas

とんで、まぜて、とりかえっこ。  
小さな子どもたちのためのダンス。  
終演後は舞台上で一緒に遊びましょう!

※おもな対象年齢：0～3歳の子どもたちと大人

日程・会場

料金未定 [6月15日(土)一般発売開始]

8月4日[日] 右京ふれあい文化会館

5日[月] 北文化会館

10日[土] 呉竹文化センター

11日[日] 東部文化会館

主催 | 公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団(ロームシアター京都、  
京都市東部文化会館、京都市呉竹文化センター、京都市西文化会館ウエスティ、  
京都市北文化会館、京都市右京ふれあい文化会館)、京都市  
協力 | 国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ(りっかりっか\*フェスタ) 12日[月・休] 西文化会館ウエスティ

主催

『スティック・バイ・ミー』レッド・ブリッジ・アーツ from スコットランド



©Mihaela Bodlovoc

友情と遊び、そしてささいなことを  
大切にすることについて、  
言葉を使わず伝えてくれる舞台。

※おもな対象年齢：3～6歳の子どもたちと大人

日程

8月上旬

会場

ノースホール

料金未定 [6月15日(土)一般発売開始]

主催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

主催

『グレーテルとヘンゼル』

みんながよく知っているグリム童話『ヘンゼルとグレーテル』とは、  
ちよっぴり違う?! 姉と弟のおはなし。



撮影：岡千里

グリム童話で有名な兄と妹の話「ヘンゼルとグレーテル」とは、ちよっぴり違う「グレーテルとヘンゼル」は、「なぜ、このお話のタイトルは『ヘンゼルとグレーテル』で、『グレーテルとヘンゼル』ではないの?!」と怒る姉と、「ぼくも!ぼくも!」と喋りばかりの弟のおはなしです。演出は世界各地で子ども向けに上演を続けている、カナダ・ケベック州の劇団ル・カルーセルの演出家、ジェルヴェ・ゴドロ、出演は、活躍めざましい土居志央梨と小日向星一でお贈りします。

脚本 | スザンヌ・ルボー 演出 | ジェルヴェ・ゴドロ

出演 | 土居志央梨、小日向星一

日時

8月14日[水]

15日[木]

15:00開演 (両日)

会場

ノースホール

※おもな対象年齢：6～10歳の子どもたちと大人

全席自由 大人2,500円／子ども(18歳以下)1,000円／

大人＋子どもペア3,000円 [6月15日(土)一般発売開始]

主催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市 企画・製作 | KAAT 神奈川芸術劇場



マルシェ



京都岡崎 丸屋書店



BOOK &amp; ART GALLERIAでの展示



ローム・スクエア

## ロームシアター京都アセンブリープログラム

ロームシアター京都では、市民に憩いの場を提供し、新しい“京都会館”=ロームシアター京都を象徴するプログラムのひとつとして、日常的に「アセンブリープログラム」を開催しています。アセンブリープログラムは、「ほんものとの出会い」を作り出す京都岡崎 丸屋書店（カルチャー・コンビニエンス・クラブ株式会社）と連携し、賑わいを生み出すために行うさまざまなイベントの総称です。ロームシアター京都が目指す劇場文化を育むための入り口として、気軽に参加できるマルシェや読書会などのプログラム、一般参加型のワークショップなどのプログラム、ロームシアター京都自主事業と連動したプログラム、地域施設・団体と連携したプログラムを展開しています。

過去開催したアセンブリープログラムの一例 | マルシェ(岡崎おかない市、岡崎いどりマルシェ、京の手づくりマルシェ ほか) / ワークショップ(ストール染め、抹茶を知って楽しむワークショップ、手作りうちわ ワークショップ ほか) / トークイベント / 読書会 / DJ イベント ほか



## ミュージックサロン

ミュージックサロンは、音楽とさまざまな形で触れあえる施設です。本格的な音響施設を備えた120インチスクリーンでのオペラ等の鑑賞や、音楽家によるコンサート、専門家によるセミナー、公演に関連した展示などを随時開催しています。

営業時間 | 10:00~19:00  
場所 | パークプラザ3階  
料金 | 入場無料  
※一部整理券が必要な場合あり

共同運営 | 公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団、公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション 協賛 | ローム株式会社

## 「いま」を考える トークシリーズ



多様な角度から同時代の社会を知り、捉え直すためのトピックを挙げ、それにつつまれるゲストを招きます。複雑化し、混迷する現代を「いかに生きるべきか」。その手がかりを探り、ともに考えるトークシリーズです。

日程

通年

[全4回予定]

会場

3階共通ロビー [予定]

参加費無料 申込優先 (先着順)

※当日お席がある場合は申込無しでもご参加いただけます

主催 | ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

主催

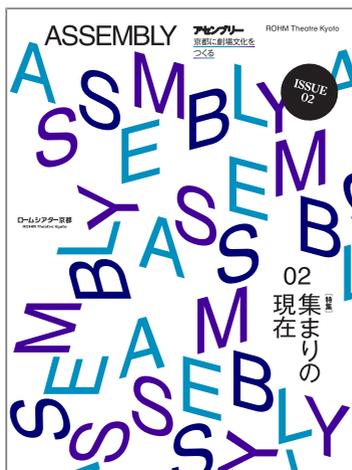
## 地域の課題を 考える プラットフォーム

日程

9月- [予定]

劇場が舞台芸術のためだけに存在するのではなく、地域や社会に根ざした多様な人々をつなぐハブとしての役割を担い、芸術文化の視点から地域コミュニティの活性化を図るための取り組みです。2019年度は、「障がいとアート(仮)」をテーマに、障がいを持つ人々とのワークショップを通じて、このテーマを取り巻く課題について考えます。

主催 | ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市



2017年度より実施しているプログラム「リサーチプログラム」、「いまを考えるトークシリーズ」と連携する機関誌です。「リサーチプログラム」に参加するリサーチャーによる寄稿などを掲載しています。2019年度はVOL.04、VOL.05を発行予定です。

Vol.1 | (2018年3月発行・既刊)

Vol.2 | (2018年12月発行・既刊)

[特集] 集まりの現在

Vol.3 | (2019年3月発行予定)

[特集] 子ども/子供/子どもを考える

## 機関誌 「ASSEMBLY (アセンブリー)」

年2号発行予定

TICKET

## チケットのご購入について

【WEB】オンラインチケット 24時間購入可／要事前登録（無料）

※詳しくはロームシアター京都または京都コンサートホールのWEBサイトへ

URL <https://www.e-get.jp/kyoto/pt/>

【電話・窓口】ロームシアター京都 チケットカウンター

TEL 075-746-3201（窓口・電話とも10:00～19:00／年中無休 ※臨時休館日を除く）

【電話・窓口】京都コンサートホール チケットカウンター

TEL 075-711-3231（窓口・電話とも10:00～17:00／第1・3月曜日休館 ※休日の場合は翌日）

CLUB

## 京都コンサートホール・ロームシアター京都 Club会員募集中!

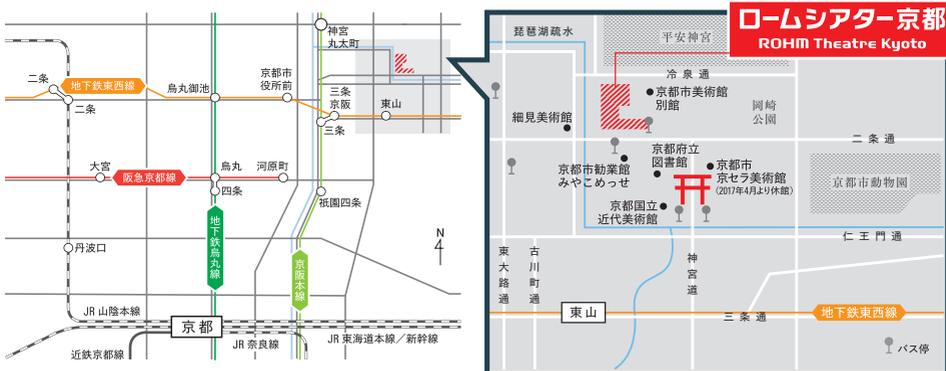
いつでもご入会いただけます。

入会金	年会費	会員期間
<b>無料</b>	<b>1,000</b> 円（税込）	<b>1年間</b> （4月1日～翌年3月31日）

- |   |  |                                 |  |
|---|--|---------------------------------|--|
| 特典<br><b>1</b><br>チケット<br>優先予約<br>※指定公演のみ | 特典<br><b>2</b><br>チケットの<br>割引販売<br>※指定公演のみ | 特典<br><b>3</b><br>公演情報等<br>のご送付 | 特典<br><b>4</b><br>お電話1本で<br>楽々チケット購入! など |
|---|--|---------------------------------|--|

詳細はロームシアター京都チケットカウンター（TEL.075-746-3201）までお問合せください。

ACCESS



〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13

- 京都市営地下鉄東西線「東山」駅下車1番出口より徒歩約10分
- 京阪電鉄「神宮丸太町」駅下車2番出口より徒歩約13分
- 市バス32・46系統、京都岡崎ループ「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車すぐ
- 市バス5・100・110系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車徒歩約5分
- 市バス31・201・202・203・206系統「東山二条・岡崎公園口」下車徒歩約5分

CONTACT

TEL 075-771-6051（代表） 075-746-3201（チケットカウンター）

FAX 075-746-3366 URL <https://rohmtheatrekkyoto.jp/>

f @ROHMTheatreKyoto t @RT\_Kyoto